

科学研究費助成事業（基盤研究（S））事後評価

課題番号	18H05266	研究期間	平成30(2018)年度 ～令和4(2022)年度
研究課題名	根寄生雑草被害低減を目指した化学・生物学基盤の構築と応用	研究代表者 (所属・職) (令和5年3月現在)	浅見 忠男 (東京大学・大学院農学生命科学研究科(農学部)・教授)

【令和5(2023)年度 事後評価結果】

評価		評価基準
	A+	期待以上の成果があった
○	A	期待どおりの成果があった
	A-	一部十分ではなかったが、概ね期待どおりの成果があった
	B	十分ではなかったが一応の成果があった
	C	期待された成果が上がらなかった
<p>(研究の概要)</p> <p>本研究は、根寄生雑草に対して種子発芽・寄生促進作用をもつストリゴラクトン(SL)の生合成阻害剤、自殺発芽を誘導するSLアゴニスト、植物ホルモン間クロストークによりSL機能を制御するエチレンアゴニストなど、寄生を抑制する化合物の創製に取り組むものである。</p>		
<p>(意見等)</p> <p>ストリゴラクトンの寄生を抑制するアゴニスト及びアンタゴニストの創製は順調に推移し、作用機構と植物体への効果を確認する段階にある。研究代表者らが発見したストリゴラクトン生合成阻害剤TIS108の標的同定も進展しており、研究の途中で別の阻害物質も発見されている。自殺発芽誘導剤としてのエチレンアゴニストの創製及びジベレリン誘導体の検出も進んでいる。研究の進展が順調である一方で、それぞれの物質が寄生の抑制にどの程度効果があるのかについての量的な評価が示されておらず、除草効果の実用性の確認については今後期待する。</p>		